

# みちのく薪びと祭り



**EPO TOHOKU**

東北環境パートナーシップオフィス  
Environmental Partnership Office Tohoku

# 1.再生可能エネルギー交流会「みちのく薪びと祭り」のはじまり

**①はじまり：『3.11あの時』ヒアリング**  
 EPO東北では2011年4月から関係者を訪問し、被災地を見て回った。現状と共にあの時何が起こったのか当時の様子を記録し、東北の人々が今どんな思いを抱えているのかを伝えようと「3.11あの時」ヒアリングを開始した。

環境NPOにこだわらず、広く環境活動に携わってきた皆様にヒアリングを行う方針を掲げて、環境NPO以外に企業、福祉団体、協働組合、メディア関係者、大学関係者、中間支援組織、個人、実にさまざまな立場の方々にご協力いただいた。

**②ヒアリングの中で：**  
 非常時に再生可能エネルギーが

- ◎ とても活躍した
- ▲ さまざまな要因で使えなかった両方の話題に注目。

**③疑問：**

- ★ 非常時にも役立つエネルギーとは？
- ★ 自立分散型のエネルギーの在り方とは？
- ★ 教訓を活かすためには

**2011.3.11  
東日本大震災**

『3.11あの時』ヒアリング





**④みちのく薪びと祭りの前身：**  
 太陽光、風力、BDF、バイオマス等、様々な「再生可能エネルギー」を活用する主体が一堂に会する意見交換の場を企画

**再生可能エネルギー交流会**

2011年/H23  
情報交換・意見交換会

2012年/H24  
情報交換・意見交換会



2013年/H25  
分科会①BDF  
分科会②新



地方EPO連携 2013年in広島  
 2014年in福岡  
 2015年in四国

**地域開催型交流会  
「みちのく薪びと祭り」**

**⑥地域開催型交流会へ：**  
 「この議論は地域で開催すべき！」と提案を受けて、開催地域で実行委員会を立ち上げた。

**Start：2014年/H26**  
 地域開催型の交流会事業  
 「みちのくみちのく薪びと祭り」が誕生  
 @山形県鶴岡市

「これは東北各地で開催すべき」の声をを受けて『目指せ東北1週』を合言葉に、毎年開催するEPO東北の看板事業となる。

**⑤参加者発案のテーマ別交流会：**  
 「テーマ別に分かれて議論を深めたい」と要望を受けて、『BDF』と『薪』をテーマにした2つの分科会を開催

**⑥『学びの共有』を東北の外へ：**  
 「東北の学びを共有してほしい」との要望を受け、地方EPOと連携して広島、福岡、愛媛でも再生可能エネルギー交流会を開催  
 ≪連携≫ EPOちゅうごく、EPO九州、四国EPO

# 2.再生可能エネルギー交流会「みちのく薪びと祭り」の歴史

2011.3.11  
東日本大震災

『3.11あの時』  
ヒアリング





## 再生可能エネルギー交流会

2011年/H23  
情報交換・意見交換会  
2012年/H24  
情報交換・意見交換会



2013年/H25  
分科会①BDF  
分科会②薪



地方EPO連携  
2013年in広島  
2014年in福岡  
2015年in四国

目指せ東北1周!!

## 地域開催型交流会 「みちのく薪びと祭り」

- 2014年/H26  
第1回 in山形さんぜ  
(山形県鶴岡市三瀬地区)
- 2015年/H27  
第2回 in岩手とおの  
(岩手県遠野市)
- 2016年/H28  
第3回 in福島みなみあいづ  
(福島県南会津町)
- 2017年/H29  
第4回 in宮城なるこ  
(宮城県大崎市鳴子温泉)
- 2018年/H30  
第5回in秋田梅内  
(秋田県能代市梅内地域)
- 2019年/H31  
第6回in青森おおわに  
(青森県大鰐町)

2巡目

## 「みちのく薪びと祭り」 Stage2

- 2022年/R4  
第1回 in三瀬  
(山形県鶴岡市三瀬地区)
- 2023年/R5  
第2回 in釜石  
(岩手県釜石市)
- 2024年/R6  
第3回 in宮城川崎  
(宮城県川崎町)
- 2025年/R7  
第4回 in福島西郷  
(福島県西郷村)

2020年1月～  
新型コロナウイルス感染症の流行

▲対面交流の自粛…  
「みちのく薪びと祭り」の  
役割を見つめ直す

- 2020年/R2  
キーパーソン会議in広島芸北  
(広島県山県郡北広島町)
- 2021年/R3  
キーパーソン会議in鳴子  
(宮城県大崎市鳴子温泉)

### 3. 「みちのく薪びと祭り」とは

目的

協働を手法に用いて  
①東北をつなぐゆるやかなネットワークを構築する  
②相互交流を通じて個々の活動の活性化を目指す

Who

主催：地域のキーパーソンとなる団体 + 地域のステークホルダー + EPO東北  
対象：薪をテーマに活動する東北の団体（NPO、任意団体、企業、大学、等）

How

体験と学びあいを通して  
課題を見つめ、解決策を模索し、  
活動を活性化するきっかけとなる交流会を  
関係者の協働で創る

**POINT :**  
ステークホルダーの巻き込みは  
EPO東北から働きかける  
例) 自治体、大学、企業、森林組合、等

**成果 :**  
みちのく薪びと祭りをきっかけに、地域の主体  
との関係性ができ、その後の連携につながった

## 目指せ東北 1 周。『薪びと』をつなぐ仲間づくり

対話



交流



体験



知 学 考 体験 交

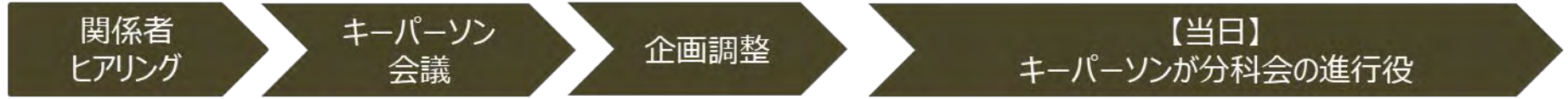
対話と体験を通じた学び合いと相互交流の場

# 4.地域の主体と協働する、EPOネットワークの注目事例へ

EPOが運営主体を担ってきた企画が年を追うごとに変化した。  
参加者のうち主要メンバーを集めた「キーパーソン会議」を開催し、  
①企画検討 ②広報 ③当日運営  
を協働で実施するスタイルに定着した。

EPOが実施する協働の事例として、EPOネットワークでも注目される事業となる。

## 「参加する」から『参画する』への変化



# 第1回みちのく薪びと祭り in 山形さんぜ

日 2014 (H26) /10/25-26  
 場所 山形県鶴岡市三瀬地区  
 参加 のべ139名

- 第1部シンポジウム
  - ①三瀬の取組報告
  - ②話題提供
- ノギリスト 新妻弘明氏  
 薪割りスト 深澤光氏
- 第2部分散会  
 東北の活動団体発表
- 情報交換・交流タイム
- 第3部フィールドワーク
  - ①薪割体験
  - ②トレッキング



主催：みちのく薪びと祭り  
 山形実行委員会

- ・薪の会、三瀬地区自治会、地元工務店、環境NPOなどで構成する実行委員会を立ち上げて実施
- ・地域の婦人会の協力を得て、懇親会では郷土料理を提供いただいた。他県からの参加者の好反応を得て、婦人会ではその後子どもたちに郷土料理を伝える食育活動が活発になった。
- ・他県から多くの人が集まったことで薪の会の活動が地域住民に認知され、開催後に薪の会のメンバーが増員
- ・三瀬地区自治会は環境省モデル事業へ応募し、森林資源の活用をテーマに活動を発展させた。

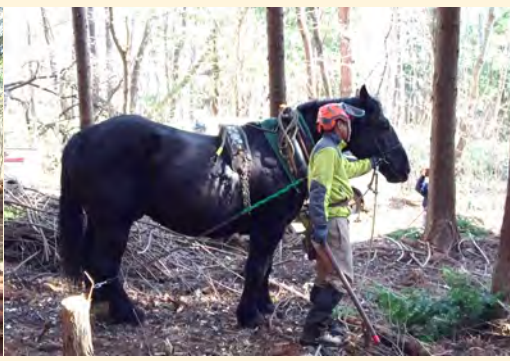
# 第2回みちのく薪びと祭り in 岩手とおの

日 2015 (H27) /11/21-22  
 場所 岩手県遠野市  
 参加 29名

- 第1部
- ① 話題提供  
 西和賀町林業振興課 内記和彦氏  
 葛巻町森林組合 竹川高行氏
- ② グループ討議
- ③ 全体ディスカッション
- 情報交換・交流タイム
- フィールドワーク



主催：NPO法人遠野エコネット  
 EPO東北



- ・第1回みちのく薪びと祭りで遠野エコネットが第2回遠野開催を宣言
- ・グループ討議では全体を2グループに分け、進行はキーパーソンが担った。
- ・フィールドワークでは遠野エコネットが導入している道具の実演、馬が木材を運搬する『馬搬（ばはん）』を見学した。
- ・開催後、参加者が団体のメンバーを連れて遠野エコネットを視察するなどの連携が生まれた。
- ・遠野エコネットの仕組みを真似て導入するなど、参加者への波及もみられた。

# 第3回みちのく薪びと祭り in 福島みなみあいづ

日 2016 (H28) /11/26-27  
場所 福島県南会津町  
参加 76名

- 第1部
  - ①基調講演「広島県広島町と東北各地の事例」  
北広島町立芸北高原の自然館 白川勝信氏
  - ②事例紹介  
NPO法人吉里吉里国 芳賀正彦氏  
三瀬地区自治会 石塚慶氏  
NPO法人川崎町の資源をいかす会 菊池重雄氏
- 第2部
  - 情報交換・交流タイム
  - フィールドワーク



主催：NPO法人  
みなみあいづ森林ネットワーク  
EPO東北

- ・東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故により大量の放射性物質が放出され、事故によって放出された放射性物質セシウムによる汚染が懸念から薪の利用に制限が設けられた。福島で活動する団体からは現状を知ってもらい、どう向き合うべきか議論をしたいと要望があったこと、東北各地の関係団体からも対応を知りたいとのニーズを受けて企画した。
- ・回を重ねるごとに参加者同士の仲間意識が醸成されているという認識が生まれていることが確認できた。
- ・第1回・第2回と比べると東北地域外からの参加も多く、緩やかなネットワークの広がりが見られた。

# 第4回みちのく薪びと祭り in 宮城なるこ

日 2017 (H29) /11/18-19  
 場所 宮城県大崎市鳴子温泉  
 参加 51名

- 薪・ペレットストーブ展示・体験フェスタ
- 第1部 話題提供  
 旅館大沼五代目湯守 大沼伸治氏
- 情報交換・交流タイム
- 第2部 フィールドワーク
- 第3部
- ① 分科会  
 テーマ1 薪と生業  
 テーマ2 薪の普及と担い手づくり  
 テーマ3 森と山の手入れ・技
- ② 全体会



主催：NPO法人しんりん  
 EPO東北

・あ・ら・伊達な道の駅を会場に薪ストーブ・ペレットストーブの展示フェスタを実施し、参加団体も出展して薪ストーブ・ペレットストーブの展示と森林資源の現状や森林に係る仕事・活動の周知を行った。

・エクスカーションではNPO法人森林の活動現場を見学し、放置されていた林は山を傷めず効率的に材を搬出できるよう、馬と機械の特性を両方活かした「ハイブリット林業」を進めていることなど現場の特徴と団体のポリシーの説明があった。これを受けて「山を傷つけない事業に感銘した」「牛や馬を活かした取組は素晴らしい」など満足度の高い感想が寄せられた。

・第1回～第3回までは主催団体が中心に企画と当日の運営を行ってきたが、キーパーソンも企画から参画し、当日も分科会の進行を担うなど協働実施に至った。

# 第5回みちのく薪びと祭りin秋田梅内

日 2018 (H30) /11/3-4  
 場所 秋田県能代市梅内地域  
 参加 57名

- 第1部 基調講演  
 「薪を未来に託す」  
 (株)ディーエルディー 木平英一氏
- 第2部 活動発表  
 ふくしま薪ネット 渡部昌俊氏  
 西和賀町森林振興課 根岸由佳氏  
 三瀬の薪研究会 石塚慶氏  
 EPOちゅうごく 松原裕樹氏  
 芸北せどやま再生会議 白川勝信氏
- 第3部 分科会  
 ①生業グループ  
 ②技術グループ  
 ③薪ストーブ愛好家グループ
- 情報交換・交流タイム
- 第4部 フィールドワーク



主催：ニツ井宝の森林  
 プロジェクト  
 EPO東北

・企画団体からキーパーソンを主体として巻き込み、事前準備から当日の運営に至るまで役割分担のもとで実施した。分科会では進行を2名一組でキーパーソンが担い、EPO東北は記録係に徹した。  
 ・開催地となった梅内聚落は外部からの人の受け入れに消極的な地域で、主催団体の働きかけにより実施に至った。他地域および若者との交流に刺激を受け、開催後には過疎化が進む地域の活性化に向けて外部との連携について議論された。積極的に集落で外部からの依頼を受け入れていく方針が出され、大学との連携による学生の受け入れや、首都圏を中心に県外在住者との交流を行う関係人口づくりが行われるようになり、取り組みがメディアに掲載された。

# 第6回みちのく薪びと祭りin青森おおわに

日 2019 (H31) /10/26-27  
 場所 青森県大鰐町  
 参加 47名

- 第1部 講演  
 「森（木水土）の時代が、実はSDGsだった！」  
 青森大学 佐々木豊志氏  
 「日本型林業用作業着の開発」  
 八戸市森林組合 工藤義治氏
- 第2部 活動発表  
 青森県弘前市 久保田勝二氏  
 EPOCHうごく 西村浩美氏、白川勝信氏  
 四国EPO 常川真由美氏
- 第3部 分科会  
 セッション1 今日の活動発表を受けての感想  
 セッション2 薪作りの安全対策  
 セッション3 全体共有
- 情報交換・交流タイム
- 第4部 フィールドワーク



主催：薪ストーブ愛好会くべる部  
 EPO東北

・企画団体からキーパーソンを主体として巻き込み、事前準備から当日の運営に至るまで役割分担のもとで実施した。分科会では進行を2名一組でキーパーソンが担い、EPO東北は記録係に徹した。  
 ・開催地となった梅内聚落は外部からの人の受け入れに消極的な地域で、主催団体の働きかけにより実施に至った。他地域および若者との交流に刺激を受け、開催後には過疎化が進む地域の活性化に向けて外部との連携について議論された。積極的に集落で外部からの依頼を受け入れていく方針が出され、大学との連携による学生の受け入れや、首都圏を中心に県外在住者との交流を行う関係人口づくりが行われるようになり、取り組みがメディアに掲載された。

# 『みちのく薪びと祭り』2巡目へ

## 地域開催型交流会 「みちのく薪びと祭り」

Stage1 2014年～2019年

2014年/H26  
第1回 in山形さんぜ  
(山形県鶴岡市三瀬地区)

2015年/H27  
第2回 in岩手とおの  
(岩手県遠野市)

2016年/H28  
第3回 in福島みなみあいづ  
(福島県南会津町)

2017年/H29  
第4回 in宮城なるこ  
(宮城県大崎市鳴子温泉)

2018年/H30  
第5回 in秋田梅内  
(秋田県能代市梅内地域)

2019年/H31  
第6回 in青森おおわに  
(青森県大鰐町)

2020年1月～  
新型コロナウイルス感染症の流行



交流会型催事の自粛

## 「みちのく薪びと祭り」 役割を見つめ直す2年間

2020年/R2  
キーパーソン会議in広島芸北

日 2020/11/14-15

場所 広島県山県郡北広島町

参加 15名

内容 ①話題提供 ②現地視察 ③意見交換



2021年/R3  
キーパーソン会議in鳴子

日 2021/11/12

場所 宮城県大崎市鳴子温泉

参加 22名

内容 ①現地視察 ②キーパーソン会議



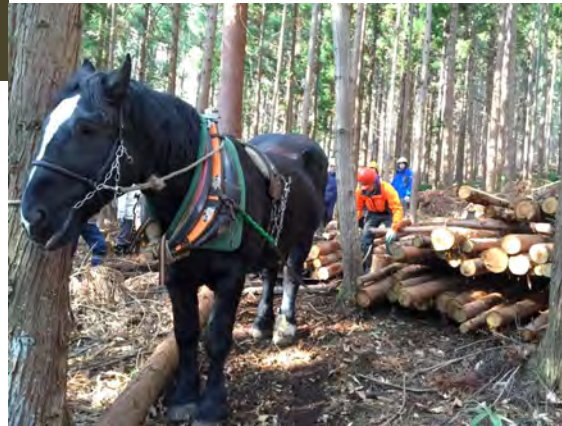
# 『みちのく薪びと祭り』が果たす役割とは

互いに学びあい  
活動の評価し合い  
励まし合う  
年に1度の「祭り」である。

- みちのく薪びと祭りを通して地域を見直す
- 取組みの意義を確認する
- 新たな価値の再発見



活動の活性化につながっている



# 『みちのく薪びと祭り』stage2、始動。

互いに学び合い  
 活動を評価し合い  
 励まし合う 年に1度の「祭り」



## 東北の新たな価値観を 創造する

### エネルギーの地産地消

- 【経済】 薪による地域の経済循環  
お金で創る地域の輪
- 【環境】 元気な森づくり  
間伐材、未利用材の活性化  
生物多様性
- 【文化】 森とくらす  
女性の役割  
東北の暮らしと歴史
- 【教育】 担い手育成  
森や薪の社会認識  
次世代につなぐ

### 地域循環共生圏みちのくモデル

みちのく薪びと祭りを通して  
 地域を見直し  
 取組みの意義を確認することで  
 新たな価値の再発見と活動の活性化につなげる

# みちのく薪びと祭りStage2 in 三瀬

日 2022 (R4) /10/21-22  
 場所 山形県鶴岡市三瀬地区  
 参加 61名

■ オリエンテーション

■ 意見交換

◀進め方▶

- ① 話題提供
- ② 意見交換 (フィッシュボウル形式)  
 ※フィッシュボウル形式：外側の円の人々が、中心の円で行われている対話を眺める対話の手法。
- ③ 3人1組意見交換

◀内容▶

- 1) トークテーマ①コロナ禍で変わった価値観とは？  
 【話題提供】三瀬地区自治会 石塚慶氏
- 2) トークテーマ②未来のビジョンをどう描く？  
 【話題提供】東北芸術工科大学デザイン工学部 建築・環境デザイン学科 教授 三浦秀一氏
- 3) トークテーマ③次の担い手とどうつながる？  
 【話題提供】青森大学社会学部教授 SDGs研究センター長 藤公晴氏
- 1日目全体振り返り
- フィールドワーク



主催：三瀬地区自治会  
 EPO東北

・学生、地域おこし協力隊、若手を中心とした団体など新たな層の参加があり、幅広い年齢層による意見交流を行うことができた。  
 ・フィッシュボウル形式による会場全体の対話と、3人1組で感想共有を繰り返す進行とした。参加者全員が発言する時間を設けることで主体性が生まれ、多世代が集う中でも活発なコミュニケーションを促すことができた。アンケートでも「参加者全員が主役となれる形があった」と好評だった。

# みちのく薪びと祭りStage2 in 釜石

日 2023 (R5) /10/9-10  
 場所 岩手県釜石市  
 参加 77名

- オリエンテーション
- 活動紹介  
 一般社団法人ゴジヨル 菊池隼氏
- 講演  
 社会福祉法人恩賜財団済生会 理事長  
 炭谷茂氏
- 話題提供  
 ①NPO法人遠野エコネット 代表理事 千葉和氏  
 ②NPO法人吉里吉里国 理事長 松永いづみ氏  
 ③登別市観光交流センター 副センター長 白川勝信氏
- パネルディスカッション  
 ファシリテーター/白川氏  
 パネリスト/①炭谷氏 ②菊池氏 ③岩手県西和賀町 町長 内記和彦氏 ④NPO法人しんりん 理事長 大場隆博氏 ⑤株式会社百 中安祐太氏  
 テーマ/①地域存続のための森林エネルギーの活用  
 ②担い手の確保、育成
- フィールドワーク  
 ※雨天のため行程変更  
 ①釜石鵜住居復興スタジアム  
 ②みのすけ沼を中心とする  
 生物多様性について  
 ③東日本大震災の記憶



主催：みちのく薪びと祭りStage2 in 釜石 実行委員会  
 NPO法人遠野エコネット、一般社団法人ゴジヨル、  
 NPO法人吉里吉里国、東北環境パートナーシップオフィス（EPO東北）

・岩手県内の団体で実行委員会を構成し、準備および運営にあたり開催地の観光DMOの巻き込みを図り、地域主体の運営体制により実施した。（開催地の運営主体である一般社団法人ゴジヨルは環境省地域循環共生圏プラットフォーム事業の採択団体）  
 ・林業と福祉など、環境課題と他の地域課題を掛け合わせて同時解決を目指す事例を提示し、複合的・統合的な地域課題の解決をテーマに議論を行った。「環境×教育を軸に立体的な巻き込みを意識したい」「環境×福祉の可能性を大きく感じた」などの意見が寄せられ、地域循環共生圏の考え方の意義を参加者と共有することができた。  
 ・フィールドワークでは釜石鵜住居復興スタジアムを見学したほか、語り部の方のお話を伺った。「みちのく薪びと祭りの原点が東日本大震災なので、釜石という地で民宿や語り部の方々の話を聞きながらフィールドワークができて良かった」と感想が寄せられた。

# みちのく薪びと祭り2024 in 宮城川崎

日 2024 (R6) /10/14-15  
 場所 宮城県川崎町  
 参加 約200名

## ■ 薪マルシェ

- ① 薪に関する東北内外からの体験・展示・販売など15団体が出展
- ② 川崎町内の飲食店、川崎町地域おこし協力隊による飲食ブース出展

## ■ 講演会

- ① 「川崎町の森林について考える-循環する時間を求めて-」  
 東北大学大学院文学研究科 社会学研究室 助手・非常勤講師 高橋知花氏
- ② 「物質・エネルギー源としての森と人のかかわりと未来への展望」  
 京都大学科学研究所特任助教 峰尾恵人氏

## ■ トークセッション

- モデレーター  
 株式会社百 代表取締役 脳昌汰氏
- パネリスト
- ① 高橋知花氏
  - ② 峰尾恵人氏
  - ③ 株式会社百 宮川卓士氏

## ■ 講評

東北大学名誉教授 新妻弘明氏

## ■ エクスカーション

- ① 伐倒・皆伐萌芽更新現場見学  
 川崎町の資源をいかす会
- ② 百のやど見学  
 株式会社百
- ③ 薪を利用した地ビールの製造工場見学  
 Forest Brewing



主催：株式会社百、EPO東北  
 共催：川崎町の資源をいかす会  
 後援：宮城県

- ・企画運営を開催地のキーパーソンが担い、EPO東北が運営をサポートする新たな役割分担のもとで開催した。実施主体にとっては企画運営のノウハウを得る機会となり、『宮城版みちのく薪びと祭り』を独自開催しようと議論が始まるに至った。
- ・開催にあたっては県内の団体に参加を呼びかけ、新しいつながりをつくる場となった。今後の事業連携に向けた関係構築に貢献できた。
- ・実施主体の提案により「薪マルシェ」を開催し、広く一般市民や地元住民の参加が得られた。関係主体からも「関連する事業者が集まって交流が深められた」「一般のお客様にみちのく薪びと祭りや自分たちの事業をPRできて良かった」と感想が寄せられた。
- ・アンケートでは知識の収集、情報交換、考え方の共有ができた満足度が高く、対面型の交流事業の良さを強く示す回答が得られた。

# みちのく薪びと祭りStage2 in 福島西郷

日 2025 (R7) /11/15-16  
 場所 福島県西郷村  
 参加 69名

## ■基調講演

①「福島県の森林状況（放射線の視点から）」  
 植頭康裕氏（国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構 安全・核セキュリティ統括本部 本部長代理）

## ■話題提供

「森林モニタリングについて～放射線の測定体験～」  
 小又智輝氏（特定廃棄物埋立情報館 リプルンふくしま）

## ■活動紹介

- ①大橋善博氏（白河高原薪の会 会長）
- ②渡部昌俊氏（ふくしま薪ネット）
- ③星昇氏（一般社団法人湯本森・里研究所 代表理事）
- ④会田明生氏（一般社団法人ライトスタッフ 代表理事）
- ⑤石井洋平氏（福島県鮫川村 農林商工課 農林畜産係）
- ⑥田中直樹氏（ふくしま家づくりネットワーク）
- ⑦中嶋竜一氏

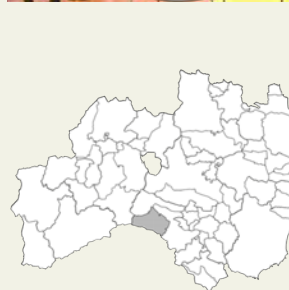
## ■トークセッション

ファシリテーター：江口健介氏（環境パートナーシッププラザ（GEOC））

テーマ：①後継者・担い手不足、薪の確保  
 ②福島の森林課題（震災事故を経て）

## ■エクササイズ

白河高原薪の会が主催する「第8回ゴルフ場 森の教室」への参加



主催：白河高原薪の会、ふくしま薪ネット、一般社団法人 湯本森・里研究所、EPO東北

共催：EPOちゅうごく

後援：福島県県南農林事務所、西郷村、西郷村教育委員会

## 【主催団体の声】

**一般社団法人湯本森・里研究所 星 昇氏**：東北の端っこ、福島の新白河まで、皆さんが集まってくれたことに感謝したい。同じ思いで繋がる人たちと、1年に1回、ざっくばらんに話ができる機会が嬉しいし、ありがたい。森林や山に関する共通課題について、アイデアをもらったり年々アップデートできる機会だと思っている。

**ふくしま薪ネット 渡辺昌敏氏**：原発事故の後、多くの参加者が悩みながらも諦めずに活動しているというリアルな声を共有できたのが良かった。各団体やっていることや得意とする専門分野が違うので継続する手法も強みも異なる。「みちのく薪びと祭り」でのネットワークは、バラバラだった団体が連携して東北全域の力を強めることができると思う。